

令和7年度 岡谷市総合教育会議 会議録

以下のとおり、会議内容について報告いたします。

-
- 会議名 令和7年度 岡谷市総合教育会議
 - 日 時 令和7年12月15日（月）午前10時00分～11時20分
 - 場 所 市役所605会議室
 - 出席者 構成員 早出一真市長、宮坂享教育長、太田博久教育長職務代理者、
藤森一俊教育委員、林慎太郎教育委員、轟美緒教育委員
市長補佐 藤澤正副市长
事務局 岡本企画政策部長、清水企画課長、芳沢政策推進主幹、小山主任
補助執行 白上教育部長、両角教育担当参事、
村松主幹指導主事（兼）学びの創生・連携支援室長、三澤生涯学習課長、
味澤スポーツ振興課長、西山教育総務課統括主幹、
新村教育総務課・川岸学園整備室主幹
小口健康福祉部長、高橋子ども課長、小口統括主幹、矢澤主査
 - 議 項 1 川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について
2 岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について
3 その他
 - 配付資料 ①川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について
②岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について
-

開会

企画政策部長 ただいまから令和7年度岡谷市総合教育会議を開催いたします。はじめに早出市長よりあいさつを申し上げます。

市長あいさつ

市長 本日はお忙しい中、岡谷市総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。教育長ならびに教育委員の皆様には、日頃から本市の教育行政の推進にご尽力を賜り、感謝申し上げます。
皆様にご心配をおかけしておりました川岸学園の施設整備につきましては、去る12月議会の最終日に第二期工事に関する契約の議決を得て、無事に契約締結となりました。これにより、令和9年4月の開校に影響なく事業を進めることとなりましたので、ご報告いたします。

さて、本日の総合教育会議は、「川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について」と「岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について」、ご協議をお願いいたします。

この会議を通じて、市と教育委員会の連携をさらに深め、第5次岡谷市総合計画に掲げる教育に関する基本目標であります「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」、また、岡谷市教育大綱に掲げる基本理念であります、「自立し、共生し、創造性

溢れる岡谷のひとづくり」の実現に向けて、着実に前進してまいりたいと考えておりますので、皆様には、活発な意見交換をお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

企画政策部長 続きまして、宮坂教育長よりご挨拶をいただきます。

教育長あいさつ

教育長 市長さんをはじめ、市長部局の皆さんには、日頃より岡谷市の教育行政に温かいご理解とご支援をいただいており、心より感謝申し上げます。

年の瀬が近づき、小中学校では学期末や冬休みを控え、また受験シーズンの到来など、子どもたちにとりましても、せわしく大事な時期を迎えております。寒さが一段と厳しくなる中、インフルエンザも流行期に入っておりますので、子どもたちの健康と安全に気を配りながら、安定した学校運営に取り組んでいきたいと考えております。

さて、本日は川岸学園構想を着実に進めるための大きなポイントとなる校名、園名についてご協議をいただいてまいります。

また、次の議題であります岡谷市幼児教育・保育の新たな大綱案につきましても、学園構想を基盤とする本市全体に及ぶ大きな目標となりますので、教育委員とともに、忌憚のないご協議をさせていただければと思います。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

企画政策部長 それでは、本日の会議に入らせていただきます。なお、本日は小平教育委員から欠席の連絡をいただいているのでご報告いたします。

以降の会議の進行につきましては、本会議の運営規則に基づきまして、藤澤副市長にお願いいたします。

議題1 川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について

副市長 次第に沿って会議を進めてまいりますが、会議の終了時刻は正午頃を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、議題の「(1) 川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について」、教育委員会からお願ひします。

両角参事 本日は教育委員会として、義務教育学校および認定こども園の施設名称に関する基本的な方針の（案）をまとめましたので、協議・調整をお願いいたします。詳細は担当より説明させていただきます。

【新村教育総務課・川岸学園整備室主幹より説明】

川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）をご覧ください。

以下、資料に基づき説明。

(資料①) 川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）

- 副市長 ただいま説明がありました「川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について」、意見交換を行ってまいりたいと思います。
- 教育長 川岸学園構想につきましては、種別の異なる施設を一体的に整備する取組であるため、両施設共通の名称があれば一体感を後押ししてくれるものと思います。
さらに、異年齢をつなぐ環境を創出することも大事であるため、両施設に共通する名称の設定は、構想に掲げた理念を象徴するものになっていくと思います。
地域や保護者、子どもたち等の意見を踏まえた上で、名称を決定していくことに非常に価値があると思います。今以上に地域に根ざし、愛される原動力となることを期待するとともに、川岸地区にとどまらず、岡谷市全体で新しいものを作っていく機運が広がっていくことを願っております。
- 太田職務代理 いよいよ名称を決める具体的な時期になったという感慨があります。
どんな名称になるかは別として、公募から正式決定までのプロセスを大事にしながら進めていただきたいです。
開校で完了ではなくスタートだと思っておりますし、その後の「おかやのまちじゅう学園化構想」もありますので、ぜひそこに向かって、例えば義務教育学校とは何か、認定こども園とは何かということを、名称決定のプロセスを通して、市民の皆さんに理解していただきながら、他の学校のことも一緒に考えていく契機としていきたいです。
- 藤森教育委員 地域としての川岸にとどまらず、名称と理念を同時に整備していただきながら、よりよい新しい学園に生まれ育っていくことを期待したいです。
名称決定についてはこのプロセスで問題ないです。市民の皆さんから公募する中で、構想そのものが広く周知されていく形をとっていただきたいです。
- 林教育委員 川岸小学校と西武中学校、また保育園にもそれぞれの歴史がある中で、名称を決めるというのは次のステップに進む非常に大事な部分と捉えております。
地元・川岸のさんはもちろん、広く市民の皆さんにこの構想自体を周知しながら、家族で話し、考えられるようなものにしていただきたいです。
- 轟教育委員 岡谷市の教育に関する大きなプロジェクトとして、川岸学園構想というものがこの2年ぐらいですっかり知れ渡っていると思います。
川岸学園ニュースの配布や地域への説明などを重ねてきたことで、川岸学園というネーミングそのものも日常会話の中に浸透していると感じ取ることができ、総称名としては最適だと思っております。
正式名称を公募で決めるというのも、市民の思いが反映されるという意味で良い手段であると思っております。川岸以外の言葉が思い浮かびませんが、他にどんな名称の候補が挙がってくるのかと期待したいところです。

市長 本日は、総称名ならびに義務教育学校および認定こども園の名称に関する方針につきまして、確認させていただきました。

この方針を踏まえ、子どもたちや保護者、さらには地域の皆様の期待と思いに寄り添いながら、地域に根づき、愛される名称となるよう市と教育委員会で名称決定に向けた手続きを着実に進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、格別のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

太田職務代理 一つ懸念材料として、説明会に参加してくださっている方が当事者、地元の方に限定されているところがまだある中で、総称名が川岸学園となることで、どうしてもその要素が強くなってしまうのではないかと感じています。

ただ、岡谷市としては、私が知る限りではかなり大きな、近年にない教育に関する前向きなプロジェクトだと思っておりますので、ここを一つのスタートとして、岡谷市の教育をみんなで育んでいく契機としていきたいです。

これはあくまでも非常に漠然とした私のイメージですが、教育に対する社会的な要請として、何か上から決めたものをこうしなさいという時代から、地域の皆さんのが一緒にになって試行錯誤・ブラッシュアップをしながら、それぞれの地域で特色のある教育を育んでいくことが求められる時代になってきていると思います。

川岸学園ということで当事者が狭まるイメージがありますが、逆にそこから川岸という地域への愛着が深まり、他の地域にも関心が広がっていく、そんな方向に結び付けられたら、地域が限定されることもプラスに変えていけるのではないかと感じました。

副市長 地域から愛されるよう学園となるよう、プロセスを大切にしながら進めていきたいと思います。

それでは、ほかになければ、川岸学園構想 施設名称（校名・園名）に関する基本的な方針（案）について、内容を確認したということでよろしくお願ひします。

議題2 岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について

副市長 それでは、議題の「（2）岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について」、早出市長お願ひします。

市長 現在、本市の保育は、公立の10園において、子どもの最善の利益を考慮しながら、共通の「保育目標」を掲げ、日々の保育園運営にあたっておりますが、今後は、本市の保育園整備計画や川岸学園構想に位置付けた「公立の幼保連携型認定こども園」にも適応できる共通の目標を掲げることで、幼児期の教育と保育の質を一層向上させていきたいと考えております。

そうしたことから、新たに「岡谷市教育大綱」との整合を図る中で、「岡谷市幼児教育・保育大綱」と言う形で制定してまいりたいと考えておりますので、協議をよろしくお願ひいたします。

【小口子ども課統括主幹より説明】

岡谷市幼児教育・保育大綱（案）をご覧ください。

以下、資料に基づき説明。

(資料②) 岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について

副市長 ただいま説明がありました、「岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について」、意見交換を行ってまいりたいと思います。

教育長 2点のことを思ったところです。

1点目は、幼児教育・保育目標の理念のところで、1番に安心して過ごせる行き届いた環境というものがありますが、この「届く」という言葉がとても大事で、施設面の安全だけでなく、そこにかかる全ての皆さんの思いが伝わってきました。教育において環境、その中でも人との関係が重要になりますが、様々なかかわりを含んだ環境のもと、「おかや絹結プロジェクト」にもつながりながら、幼保小の連携がより一層充実していくことを、この言葉から想像しました。

また、理念の2番にある豊かな活動を「積み重ねて」という言葉も響いてきました。ここにはトライアンドエラー、挑戦して失敗する中に学びがあるということも含まれていると思いますが、川岸学園構想ということで、異年齢の交流等も一つの推進役にしながら、岡谷市全体で大事にしていきたいと思います。

2点目は、表紙の武井武雄先生の「どうぶつえん」という絵が、まさに幼児教育・保育目標の理念を表しており、とても良いと思いました。

太田職務代理 先日の教育委員会において、幼児教育・保育大綱というものを掲げている自治体は全国的にも少ないというお話を伺いましたので、制定すること自体に大きな意義があると思います。

非常に網羅的で必要な要素をしっかりと入れていただいていると思いますので、これを基にして、各園の立地条件や施設環境、あるいは保育士さんの能力にあわせて、それぞれの特色を実践しやすい内容になっていると思います。

各園の特色を具体的に見える形にして市民の皆さんにお示しすることで、うちの子はここに行かせたいというところにつながっていく基盤にしていただきたいです。

藤森教育委員 幼児教育・保育大綱（案）が総合教育会議の議題として挙がることが感慨深いです。保育は市長部局ですが、子どもは一人ずつの子どもであり、義務教育を終えるまでは一貫した育ちの環境が非常に重要になるため、とても良いことだと思います。

教育大綱との整合もとれており、学びと育ちの両立など、しっかり考えていただいた内容になっていると思いますので、ぜひ生かしていただきたいです。

三つ子の魂百までと言いますが、幼児期による環境を整備することがその後の人生にもかかわってきますので、川岸学園にとどまらず岡谷市全体の教育子育てということで、役所の中でも庁内横断的に連携し、一体感を持って進めていただきたいです。

林教育委員 認定こども園と義務教育学校が一つの線となり、同じ方向を向いて進めていく枠組みができたのではないかと思います。

めざすこども像の「遊び」が「学び」に変わった理由など、その背景や思いを先生、

保護者、市民の皆さんとしっかりと共有しながら進めていただくことで、持続性のある取組になると思います。

轟教育委員 川岸学園構想の中でも、認定こども園は大きな位置づけの一つになるので、このタイミングで幼児教育・保育大綱を見直し、考え方を整理することに大きな意味があると思います。

少子化が進む中で、教育が大事と言われながらも、詰め込みは否定される時代ですので、教育の土台となる幼児期に求められるものがすごく大きくなっていると感じています。

先月の定例教育委員会で、不登校の低年齢化が問題視されておりました。養護段階からの支援がますます重要になるという話もあり、幼児期の子どもたちの過ごし方がその後の学校生活に影響があると感じました。

この大綱に示されている理念やこども像にも、策定に携わった各委員さんの意見や思いが反映されていると思います。

最近、新聞報道等で川岸学園の整備事業費の増額が伝えられましたが、市民の注目や期待が高まる一方で、厳しい目も向けられるのではないかと思います。

作ることが目的ではなくて、あくまで活用されることが大事だと感じます。制定後、岡谷市全体の幼児教育の方への周知に努め、現場で生かしていただきたいと思います。

太田職務代理 私も本大綱が活用されることを強く願うところです。各幼稚園・保育園等の皆さんに広げ、常に学び合うような環境を作っていただきたいです。

今、日本全体の人口減少の進む中で地域間競争が過熱しておりますが、どの地域に住むかを選ぶ際に、教育というのは非常に重要な要素になっていると思います。

みんなでしっかりと幼児教育・保育を具体化し、発信していただく中で、子どもを育てるなら岡谷がいいなど、それを求めて外から人が来ていただけるようなスタートになればと想像しております。

市長 貴重なご意見ありがとうございました。

この「幼児教育・保育大綱」に掲げた「幼児教育・保育目標」は、現在の「保育目標」を大切にしながら策定した、本市の公立園共通の新たなグランドデザインとなります。また、川岸学園構想に掲げる「幼児期からつながりある学び舎の創出」の幼児期から義務教育期への円滑な接続・連携にも大きく関わってまいります。

今後は、この新しい目標の下、園校のつながりにも重きを置きながら、子どもたちの健やかな成長のために丁寧な園運営に取り組んでまいりますのでよろしくお願ひいたします。

副市長 それでは、ほかになければ、「岡谷市幼児教育・保育大綱（案）について」は、内容を確認したということでよろしくお願ひします。

その他

副市長 最後にその他ですが、何かご発言等ございましたらお願ひします。

企画政策部長 イルフプラザの館内空調設備更新工事に伴うカルチャーセンター及びこどものくにの休館について、ご報告いたします。

イルフプラザにつきましては、建設から28年が経過しており、老朽化への対応が必要であることから、館内空調設備の更新工事を予定しております。

この工事に伴いまして、カルチャーセンターにつきましては、令和8年2月から約4か月間、こどものくににつきましては、令和8年2月から約2か月間の休館を予定しております。

市民の皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。

副市長 そのほか、何かございますでしょうか。

教育総務課長 「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定について、ご報告いたします。

本年6月に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等が一部改正されたことを受け、学校における働き方改革を一層推進するため、各教育委員会は、働き方改革に関する、「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定と公表することが義務付けられております。

また、当計画の内容および計画の実施状況については、この総合教育会議へ報告することが、法に基づく新たな義務付けとなりました。

つきましては、長野県の計画等の動向に注視しつつ、本市の計画の改正等を行った上で、来年度の総合教育会議において本計画の取組状況などについてご報告させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

副市長 ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(なし)

それでは、以上をもちまして、本日の会議事項は終了となります。進行を事務局の方にお返しをいたします。

閉会

企画政策部長 本日はお忙しい中、ご協議いただきありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度岡谷市総合教育会議を閉会いたします。